

令和元年度富士総合火力演習 ～援護協力企業に対し自衛隊の理解を促進～

自衛隊神奈川地方協力本部（本部長 兼本貢祐 1等海佐）は、8月22日（木）県内企業からなる自衛隊退職者援護協力組織である自衛隊神奈川援護懇話会が実施した、令和元年度富士総合火力演習研修を支援した。

富士総合火力演習は、隊員約2400人を動員し、戦車・装甲車約80両、各種火砲約60門、航空機約20機など自衛隊の様々な装備品が参加する国内最大規模の陸上自衛隊による実弾演習であり、日ごろの自衛官による訓練成果と多種多様な主要装備品を間近で見ることが出来る貴重な機会とあって、58名と多数の会員が研修に参加した。

当日は炎天下の中、会員は駐車場から演習場へ続く山道を15分ほど登り会場へ到着すると、広大な演習場の規模の大きさと大勢の来場者に驚きつつ、これから始まる演習に期待感を高め、各々シート席に陣取った。演習が始まると戦車やヘリコプターなどの主要装備品による火力展示を目の当たりにして驚きの声を上げるとともに、訓練初披露となった新装備品（19式装輪155mm自走りゅう弾砲）を前に興味津々の様子であった。また対戦車火力の一斉射撃において定められた的へ火力が集中した際には、会員をはじめとする多くの来場者から大きな拍手と歓声が沸きあがった。

神奈川地方協力本部は、「今後とも自衛隊神奈川援護懇話会の活動を積極的に支援し、防衛省・自衛隊に対する更なる理解と信頼の醸成に努め、退職自衛官の安定的雇用につけていきたい」としている。



対戦車火力の一斉射撃により大きな歓声が沸いた



新装備品を前に熱心に研修する見学者



炎天下の中、駐車場から演習場へ移動する見学者たち

「夢は、既に教育隊終了後の配置先部隊」



笑顔で着隊した左から野口さん、岡本さん、浦田さん

自衛隊神奈川地方協力本部横浜中央募集案内所（所長 平原一陸尉）は、8月28日（水）・29日（木）、陸上自衛隊朝霞駐屯地の女性自衛官教育隊の着隊業務で神奈川からの入隊予定者3名に同行した。今回は、東部方面管内から15名が自衛官候補生として元気に着隊し、3名は隊舎前で記念撮影に笑顔で応じてくれた。そのひとり、岡本 おかもと しほ

詩歩さんは「前期教育が終わったら、是非第一線部隊の普通科に行きたいです」と、現時点での希望職種を話しながら、夢はすでに教育隊終了後の配置先部隊へと広がっているようだった。また野口 のぐちゆり 友里さんからは「教育に対する不安な気持ちも多少あるが、学生の時に陸上をやっていたので大丈夫です」と、頼もしい言葉が返ってきた。その後、彼女らはそれぞれの営内班に分かれて、既に着隊していた他の数名と共に助教から指示された作業を行った。今後約3ヶ月間の教育を全員が無事終了し、元気に希望の職種に行ける事を願いつつ、朝霞駐屯地を後にした。

横浜中央募集案内所は、「今後も対象者が志願から入隊まで確実につながっていくよう懇切丁寧かつ親身な対応に努め、年度募集成果につないでいきたい」としている。